

第 163 回 第一次世界大戦後の西アジア

1 トルコ革命

- ・第一次世界大戦に敗北したオスマン帝国は、1920 年、() を連合国と結び、多くの領土を失った。
→国民の間に、オスマン帝国に対する不満と失望が広がった。
- ・第一次世界大戦の英雄 () は、() をアンカラで開催した。
- ・1919 年、領土拡大をねらって、() がアナトリア半島に侵入した。
→ムスタファ=ケマルはこれを破り、エーゲ海沿いの() を奪回した。
- ・1922 年、ムスタファ=ケマルは、() した。
→これによりオスマン帝国は消滅した。
→1923 年、セーヴル条約を廃して連合国と() を結び直し、領土の回復や治外法権の撤廃に成功した。



ムスタファ=ケマル

歴史上の人物の中では屈指のイケメン(だと思う)。第一次世界大戦では、上陸したイギリス軍を散々に打ち破り、英雄となった。



侵入したギリシアとの戦争

ギリシアとの戦いに勝利したことで、トルコ共和国の建国に大きく前進した。現在でもトルコの英雄である。「目標は地中海！前進せよ！」。



ローザンヌ会議のトルコ代表団

スイスのローザンヌで結ばれた条約で、トルコはある程度の領土を回復した。しかし少数民族クルド人の問題は無視され、問題を残した。

2 トルコ共和国の成立

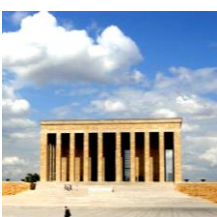
- ・1923 年、ムスタファ=ケマルは、トルコ共和国の建国を宣言した。
→ムスタファ=ケマルが共和人民党を結成して初代大統領となった。

☆ () (1923 年～2021 年現在)

都… () ※現在もトルコの首都

◆ () (在任 1923～1938 年)

- ・1924 年、() を原則とするトルコ共和国憲法を制定した。
- ・1924 年、() した。
- ・() を進めて、女性のチャドルや一夫多妻制を廃した。
→1934 年には女性参政権も認められた。
- ・1928 年、() を行ってローマ字を採用した。
- ・ムスタファ=ケマルは、議会から () という姓(尊称)を受けた。



アンカラの霊廟

首都のアンカラには、ケマルの霊廟があり、観光客を集めている。この都市は、かつてアンカラの戦いが行われた場所として有名。



チャドル

写真はチャドルを着用するイランの女性。イスラーム教では、女性は髪や肌を他人に見せてはいけないとされている。



ローマ字を教えるケマル

オスマン帝国のエリート軍人であったケマルは、フランス語などの外国語に優れていた。現在でもトルコはローマ字を使用している。

3 エジプトの独立

- ・1914 年以降、エジプトは正式に（ ）の保護国となっていた。
→第一次世界大戦後、（ ）を中心に独立運動が活発化した。

☆エジプト王国（ムハンマド＝アリー朝）（1922～1953 年）

- ・1922 年、イギリスが保護権を放棄し、エジプト王国が成立した。
→1936 年、エジプト＝イギリス同盟条約を結び、エジプトの主権が認められた。
→しかし（ ）地帯とスーダンには、イギリス軍が駐屯を続けた。
- ・ムスリム同胞団など、イスラーム復興を唱える組織もこのころ結成された。

4 イランとその他の西アジア諸国

- ・イランでは、カージャール朝がイギリスやロシアにより半植民地状態となっていた。
→第一次大戦前の 1905 年には、（ ）が起こったが挫折した。



レザー＝ハーン
元はカージャール朝の軍人。トルコのムスタファ＝ケマルに憧れていた。

- ☆（ ）（1925～1979 年）
都…（ ） ※現在もイランの首都
◆（ ）（在位 1925～1941 年）

- ・1925 年、レザー＝ハーンは、シャーを称してパフレヴィー朝を建国した。
→1935 年、国名をペルシアから（ ）に変更した。
- ・しかし国内の石油利権は、あいかわらずイギリスがにぎり続けた。

- ☆（ ）（1932～2021 年現在）
◆（ ）（在位 1932～1953 年）
・フセインが建国したヒジャーズ王国を滅ぼした後、アラビア半島の大部分を統一して建国した。



イブン＝サウード

もちろんサウード家の出身であり、ワッハーブ王国の復興を目指した。身長2メートルの大男で、子供は男の子だけで36人いる。今の第7代サルマン国王は、25男である。

- ☆（ ）（1919～1979 年国王追放）
・第3次アフガン戦争で、イギリスの勢力を追放して完全独立を果たした。

- ・イギリスから 1932 年に（ ）、1946 年に（ ）が独立した。
- ・フランスから 1943 年に（ ）、1946 年に（ ）が独立した。

